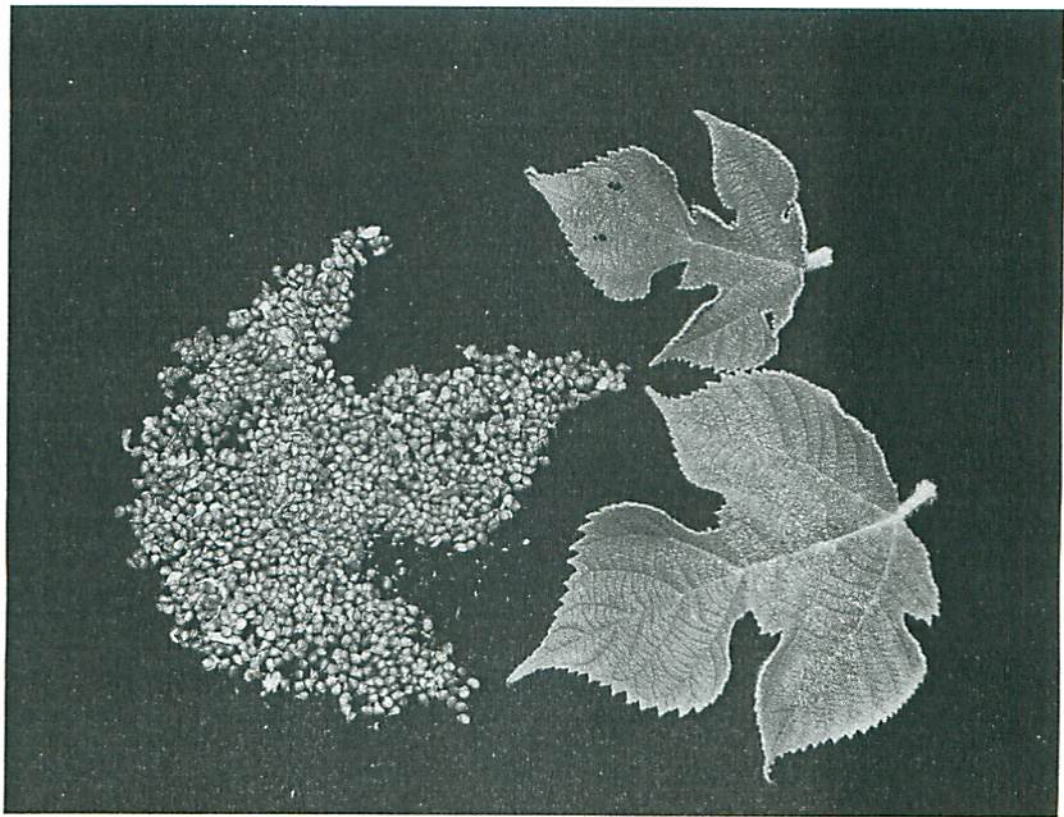


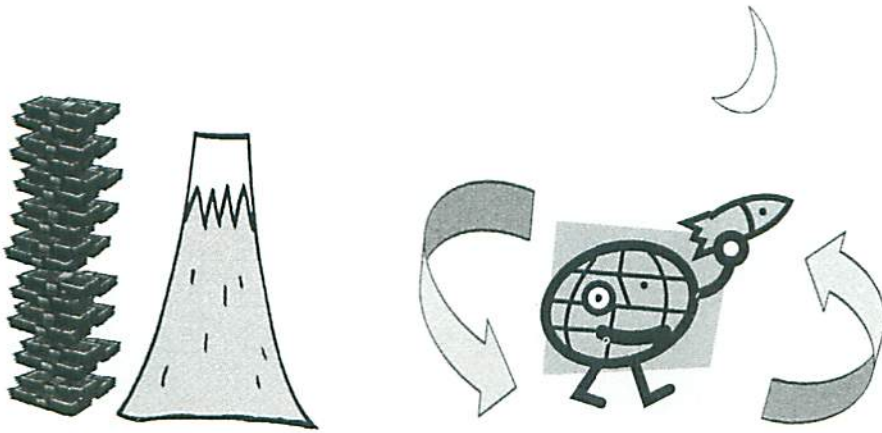
和紙の里

第32号



越前和紙と日本銀行券

日本銀行福井事務所長 松原淳一



一、日本人は富士山より高く、
月にも届くほど銀行券が好き

日本銀行券の発行残高は、昨年末の大晦日には八二・三兆円、一三七億枚に達しました。クレジットカードや電子マネーの普及、あるいはバブル崩壊以降の日本経済の停滞にも拘わらず、銀行券の人気は健在です。不況知らずの成長産業とでもいうのでしょうか。

ところで、日本銀行券を重ねるとどの程度の高さに達するのでしょうか。富士山より高くなるのでしょうか。銀行券の厚みは〇・一ミリです。現在一三五億枚の銀行券が出回っているの、〇・一ミリ掛ける一三七億枚は一三七二

キロメートルです。富士山は三七七六メートルですの
で三六三倍となります。

横に並べるとどうでしょうか。地球を一周できると思えますか。日本銀行券の長さは千円札で一五センチ、一万円札で一六センチです。掛ける一三五億枚は二一二万キロメートルとなります。地球の円周は四万キロメートルなので、地球を五三周、月までの距離の約六倍の長さです。世の中には随分と多くの銀行券が出回っているのです。

国民一人当たりの銀行券枚数を見てみましょう。米国八六枚、英国四一枚、ユーロ三八枚、カナダ五三枚に対し、日本は一〇七枚となっており、日本が

▶ 銀行券発行枚数を人口で割ると・・・

				
86枚	41枚	38枚	53枚	107枚

注. 人口当たり発行枚数は、日本は2009年末、他は2007年

一番多くなっています。米国は八六枚と比較的多いですが、米国札は世界中で使われており、米国内で使われているのは半分程度といわれています。また、米国ではチップ用にードル札が使われることが多いようです。このあたりを踏まえると、日本人の銀行券好きは、圧倒的に世界一のようなようです。

日本人が銀行券好き理由としては、
 ①治安が良く現金を持ち歩いても安全、
 ②ATMや自動販売機の普及により紙幣が使い易い、
 ③冠婚葬祭等の際に現金を包む習慣がある、などが考えられますが、忘れてはならないのは、日本銀行券は偽札が少なく安心して使えるということなのです。

二、銀行券の天敵は偽札






銀行券の歴史は、実は偽札との戦いなのです。銀行券一枚、いくらで出来るかご存知ですか。日本銀行は国立印刷局から一枚一六円〜一七円で銀行券を購入しています。現在、作成している銀行券は千円札、二千円札、五千円札、一万円札がありますが、一枚一六円〜一七円ですので、銀行券ビジネスは大変儲かります。そこで、偽札を作って新規参入を企む輩が跡を絶ちませんが、如何に真似できない銀行券を作ることが、極めて重要なのです。

警察庁が二〇〇九年に押収した日本銀行券の偽札は約三千枚でした。そんなに偽札が出回ったのかと思われるかもしれませんが、この数は大変少ないのです。銀行券一〇〇万枚当たりの偽札枚数をみると、日本では一枚程度ですが、米国一〇〇枚、英国一二二枚、カナダ九六枚です。日本で偽札が少ない理由としては、各種偽造防止技術を織り込んでいるこ



とが挙げられます。平成十六年十一月に発行した現在の一万円札には、ホログラム、すき入れバーパターン、潜像模様、パールインキ、マイクログ文字、特殊発行インキ、識別マーク、黒すか

(主要国の偽造券枚数の比較<2007年、日本は2009年>)

					
偽造券枚数 (万枚)	n. a.	29. 0	56. 1	16. 4	0. 3
流通銀行券百万枚 当たりの偽造券枚数 (枚)	100	122	49	96	0. 2

しなどが用いられていますが、忘れてはならないのは、濃淡の差がシャープな「透かし」が入っていることです。

日本銀行券は明治十五年に設立され、明治十八年に最初の日本銀行券（通称「大黒札」）を発行したのですが、この銀行券には「透かし」が取り入れられています。それ以来、「透かし」は銀行券の偽造防止技術の中心として活躍していますが、この技術を開発したのが越前和紙職人です。以下では越前和紙と銀行券の歴史を振り返ってみましょう。

三、日本最古の藩札は「福井藩札」

越前福井藩は、第二代松平忠直の乱行事件で減封され財政難に陥り、一六六一年（寛文元年）、幕府の許可を得て銀札を発行しました。日本最古の藩札です。福井藩の藩札発行を眺め、他藩でも藩札発行が相次ぎ、明治四年の廃藩置県までに全国諸藩の約八割を占める二四四藩で藩札が発行されています。

福井藩が日本で最も早い時期に藩札を発行したのは、財政難の深刻化、藩札により経済建て直しを目論む先見性、江戸幕府に発行を認めさせた格式の高さ（福井藩は御三家に次ぐ格式を誇る）



ストックホルム銀行券



福井藩札

があげられます。

福井藩札は、明治に至る約二百年にわたって、福井県越前市(旧五箇村)で製造されました。藩札の製造技術は藩の最高機密として、紙漉業者には血判を押させ誓約書を取るとともに、地域住民の他国他村への移住を禁止するなど、厳重な取締りが行われました。

福井藩の藩札発行と同じ年に、欧州初の銀行券であるストックホルム銀行券が発行されています。両者を比較すると、ストックホルム銀行券は大きいのですが、数字と文字だけです。

福井藩札には様々な動物のイラストが入っています。高額紙幣には象や麒麟が使われており、技術の高さと美的センスが光ります。越前和紙青年部会が平成二年に復刻した寛文四期札には「象」のイラストが見えます。日本に象が最初に上陸したのは福井県小浜市(一五世紀)であり、福井県にある永平寺本山の花祭りは象の山車を引き、福井のBCリーグ野球チーム名は「福井

ミラクルエレファント」です。福井県は北陸の小さな県ですが、福井県民は象さんが好きなようです。

なお、日本最初の藩札は、福山藩が一六三〇年に発行したとする説があります。ただし、福山藩札は現物が残っておらず、その真偽は確認できていません。現存する日本最古の藩札は福井藩札です。

四、日本最初の全国紙幣

「太政官札」は越前和紙

幕末の名君「松平春嶽」の下で、福井藩は殖産興業政策による藩財政の建て直しに着手しました。松平春嶽の抜擢を受けた福井藩士橋本左内は、早くから開国主義を説きましたが、安政の大獄により斬首となります。その後を

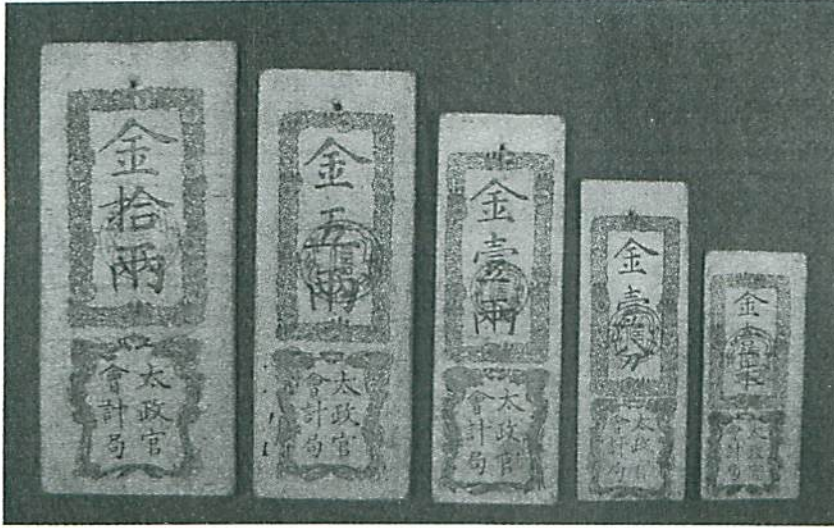
継いだ由利公正(後に、明治政府の初代財務担当責任者、東京府知事などを歴任)達は他藩に先駆け長崎でのオランダ生糸貿易などに取り組み、藩財政は急速に回復、幕末雄藩の体制が整え

られていきます。

この当時、勝海舟の命により坂本龍馬が越前福井藩を訪れ、神戸に建設中の海軍操練所運営資金として五千両を用立ててもらっています。幕府自身が三千両しか拠出していないこの施設に、福井藩は五千両の運営資金を用立てたというのは、福井藩の開明性と経済力の高さを物語っています。

坂本龍馬の推挙により岩倉具視が福井藩士「由利公正」を明治新政府の会計係判事(明治政府の初代財務担当責任者)に就任させます。由利公正は財政基盤の整っていない新政府の収入を確保するため一八六八年(慶応四年)、日本最初の全国紙幣である太政官札を発行しますが、その用紙は全量越前和紙で抄造されています。

太政官札(金札ともいう)は、十兩、五兩、一兩、一分および一朱の五種で、少額になるほど小型になっており、表面に金額と太政官会計局の文字、裏面には慶応戊辰発行、通用十三年限と刷



太政官札

られています。用紙は、福井県越前市（旧五箇村）の職人に特に念入りに漉かせたコウゾ紙で、印刷は京五条坂の増田屋が銅版による五回刷りをしたものであったようです。

由利公正は当時の日本の人口が三千万人であったことから、三千万両を發

行する計画でしたが、最終的には四千万両以上が発行されました。福井県越

前市（旧五箇村）は、太政官札用紙の一括受注により盛況を呈し、「紙は神なり」「五箇に金が降る」と言われました。

太政官札は、不換紙幣として発行されたことから、正貨に比べ著しく価値が下落し、明治五年末限り（一両以下は同十一年限り）で通用停止になりました。短期間で通用禁止に至った太政官札発行でしたが、西郷隆盛は由利公正の金札がなければ、維新はあと数年かかっていたらろうという言葉を残しています。

五、日本銀行券の透かしは

越前和紙職人が開発

明治政府は、太政官札の偽札が横行したため、ドイツからゲルマン紙幣を輸入しました。しかしながら、ゲルマン紙幣は紙質が悪く、消耗が激しかったことから、明治政府は和紙を見直し、製造工場を建設し日本独自の紙幣を製

造することにしました。

明治政府は一八七五年（明治八年）、本邦固有の紙幣用紙を漉くため、抄紙局を設置しました。その際には、越前和紙職人（加藤賀門ほか）が大蔵省に呼ばれ技術指導を実施しています。

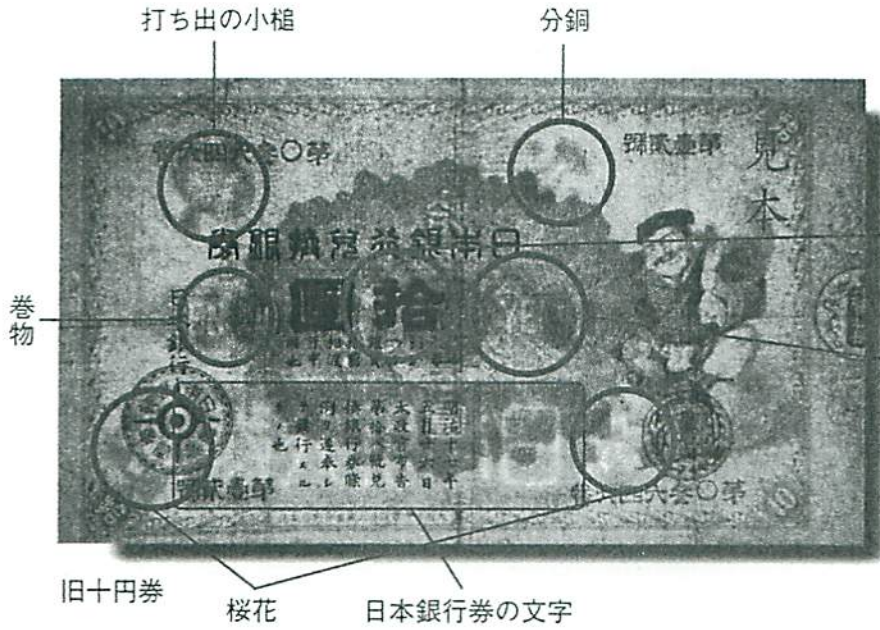
そうした努力の結果、「白透かし」の入った政府紙幣五円券が一八八二年（明治十五年）発行されています。さらに、越前和紙職人の山田藤左衛門は一八八四年（明治十七年）に精巧な「黒透かし」技法を確立し、「黒透かし」の入った拾円券（大黒札）が一八八五年（明治十八年）に発行されました。

日本銀行は一八八二年（明治十五年）に設立されましたが、最初に発行した紙幣がこの大黒札でした。大黒札には「黒すかし」で分銅や打ち出の小槌、巻物などが、「白黒すかし」で日本銀行券の文字と桜花がすき入れられています。「すかし」は、紙の厚さを部分的に薄くする「白すかし」と、厚くする「黒すかし」があります。日本銀行券には

この両者を巧妙に組み合わせた「白黒すかし」が偽造防止対策として採用されています。

日本のすき入れ技術は、濃淡の差がシャープで立体感があり、世界ナンバ

宝珠の玉 宝鍵



「ワンと言われていますが、その基礎は越前和紙職人「山田藤左衛門」などによるものです。「白すかし」は便箋など民間でも使用されていますが、「黒すかし」は「すき入れ紙製造取締法」に

よって民間での使用を現在に至るまで厳しく禁じられています。鮮明な「黒すかし」を開発した山田藤左衛門は、銀行券以外の用紙にもこの技術を活用する積りであったと言われていますが、政府の使用禁止令によりその活用の道が閉ざされました。日本銀行券の中に封じ込められた「実は福井の技術」といえるでしょう。

和紙の里 第32号

2011年(平成23年)8月25日発行

編集委員 (長)藤本 正晃
渡邊 光一 山田 益弘
石川 満夫 川崎 博
吉田 勝雄 小林 博之

発行者 越前和紙を愛する会
(代表)山田 益弘

発行所 越前和紙を愛する会
福井県越前市大滝町11-11
福井県和紙工業協同組合内
〒915-0234 TEL 0778(43)0875
FAX 0778(43)1142

印刷所 府中美術印刷(株)
福井県越前市深草2丁目4-32
TEL 0778(22)0910

■本文用紙提供/石川製紙(株) ■表紙提供/(有)小畑製紙所